

### 3.5.3 海底表面状況

本調査において、海底表面観察は前記のサイド・スキャン・ソナーを使用して行なった。探査幅はフィッシュの両側にそれぞれ125mになるようにした。

以下、本調査海域の海底状況について、8つの区域に分け、その特徴について述べる。なお本節で使用する測点番号は全て図3.3.1-1に示す往路調査のものを使用した。

#### (a) ベチャプリ斜面（陸揚点～測点788）

本区間は海底面の特徴により、陸揚点から2.7mm(5Km)までとそれ以遠に分けられる。前者はサイド・スキャン・ソナーの記録上で、部分的に音の反射の強弱による濃淡模様がみられる。これは底質の違い、すなわち周囲より粗粒の堆積物や貝殻が濃集していることなどによるもの推定される。

2.7mm(5Km)以遠では、海底面上に小凹地(深さ0.5～1.5m、巾10～30m位)が1Km当り3ヶ所位認められるほか、ほぼ平坦な海底面を示している。この他、海底には底曳き網による条痕が認められ、特に測点829～788に多く観察された(Fig3.5.9(a))。

#### (b) タイ湾平坦部（測点788～696）

この区間においては、大きな多くの起伏が海底に認められる。起伏の状況によりこの区間は(1)測点788～778、(2)778～728そして(3)728～696の3区間に分けられる。(1)の区間では、海底はゆるやかな起伏をなし、小凹地(直径5m、深さ0.5～1m)が散在している(1～5個/Km)。(2)の区間はFig3.5.9(b)に示すように、多くの凸地形が認められる。その大きさはさまざまで、長さ20～1000m、高さ2～8m位までのものがみられ、その背部には小さな凹地の存在するものもある。これら凸地形は長軸をほぼ北西-南東方向に配列している。(3)の区間は前区間と比して起伏はゆるやかなる。しかし凹地(巾5m長さ15～20m)はさらに多くなり、凸地形と同様に北西-南東方向に長軸を配列している。

#### (c) サムイ島沖合部（測点696～621）

この区間は不規則な形状の凹地と漁具による多くの条痕により特色づけられる(Fig3.5.9(c))。凹地は測点649～621には多く、その大きさは大きいもので50×25m、深さ1m以下である。またこれら凹地は一定区間において同一方向に配列していることがあり、流れの方向と関連しているものと推定される。海底にみられる条痕は縦横に走っており、比較的明瞭であるが、その条痕の深さは明らかにできなかった。しばしばこれら条痕は2本平行に走っており、その間隔は20～25m位のものが多い。

#### (d) タイ～マレーシア平坦部（測点621～317）

この区間は、凹地の多いところと少ないところが認められるが、一般に前区間(c)と比較して、海底面は平滑である。これら凹地は種々のタイプのものがあり、散在しているものや集

合状態のものがみられる。前者に属するものは比較的大きく、普通 $10 \times 20$  m位、深さ1 m以下であり、後者は小さく $5 \times 5$  m位で深さも前者より浅いようである。海底にみられる条痕はFig 3.5.9(d)に示すように、前区間と同様に多く、明瞭である。

(e) クアantan斜面(測点317~245)

この区間は表面比較的平滑であり、ほとんど凹地や漁具による条痕はみられない。しかしこの区間ではベチャブリ斜面同様、海底面上にしばしば濃淡模様が認められる(Fig 3.5.9(e)参照)。

(f) マレーシア南東部沖(測点245~43)

この区間は海底面の状況により(1)測点245~64、(2)測点64~43に分けられる。(1)ではクアantan斜面に近い方で濃淡模様、測点211~207付近でサンドウエーブと考えられるゆるやかな針面の波状地形や砂漣(リップルマーク)が観察される。漁具による海底面上の条痕は比較的少なく、また不明瞭のこと多い。(2)はシンガポール海峡の入口または出口付近にあたるところであり、測点64~57で明瞭なサンドウエーブが観察される。これらサンドウエーブは波長20 m位から500 m位、波高0.5~6 m位のものであり、非対称型をなしている(Fig 3.5.9(f)参照)。このサンドウエーブの形状から、調査の時点においては流れは西から東へ流れていることを示している。さらに海峡に近づくにつれ、波長1 m位のリズミカルに配列するリップルマークが観察される。

なお測点48~49付近において、コースの北側40 mに大きさ10 m位の沈船らしいものが認められた。

(g) シンガポール海峡(測点43~1)

シンガポール海峡部は起伏のある地形と部分的に発達するリズミカルな配列のリップルマークに特色づけられる。Fig 3.5.9(g)に示すような起伏のある地形は、基盤岩が海底面に露出もしくは近くに存在していることを示しているものである。リップルマークは波長1 m位波高10 cm前後と推定される。この区域においては漁具によると推定される条痕は少ないがFig 3.5.9(h)に示すような比較的深く、巾の広い条痕は認められる。

(h) カトン斜面(測点1~陸揚点)

この区域はFig 3.5.10(c)に示すように、泥質砂および砂質泥が不規則に分布している。

Position 822 ( Lat.  $11^{\circ} 39.11$  , Long.  $100^{\circ} 20.18$  )

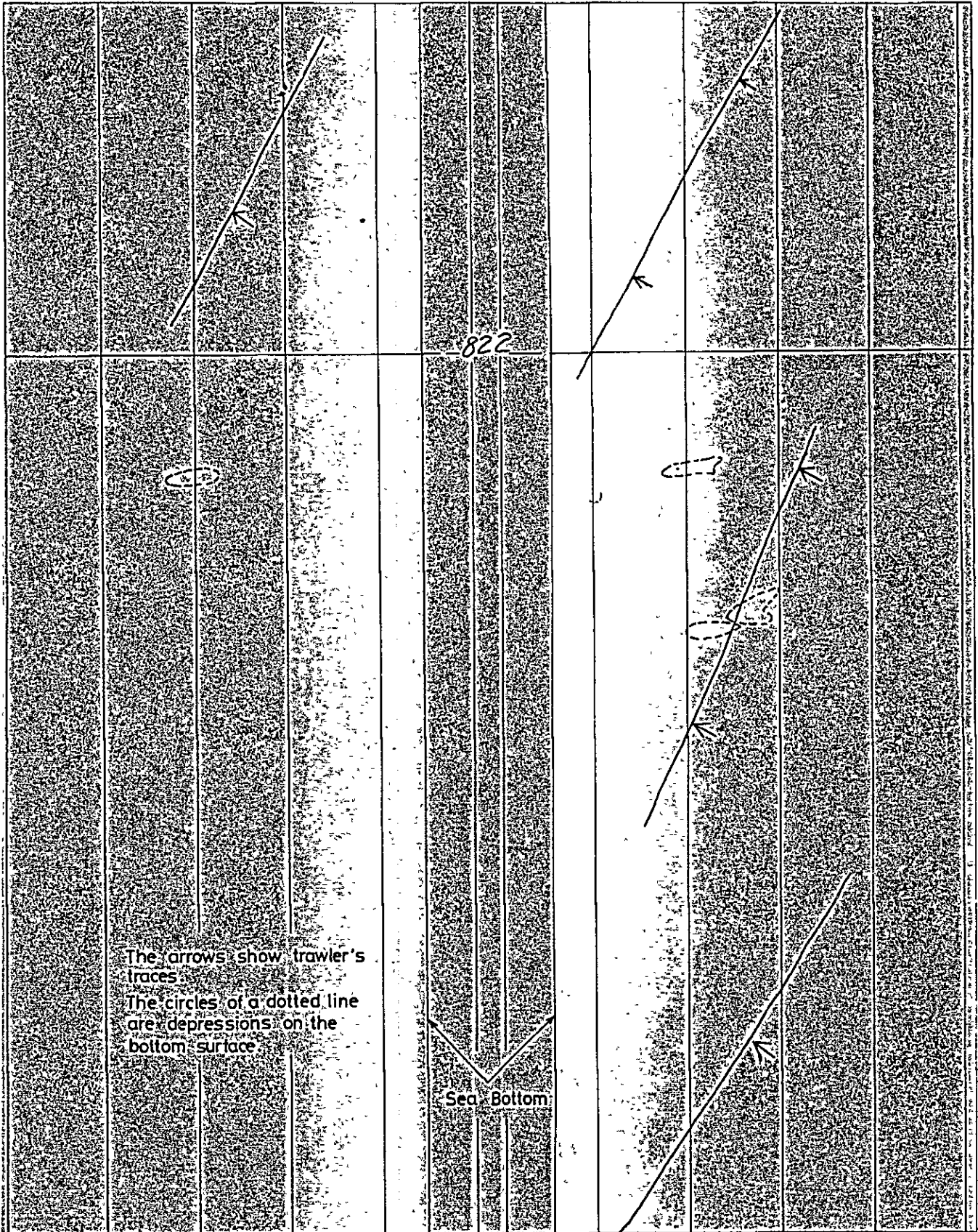
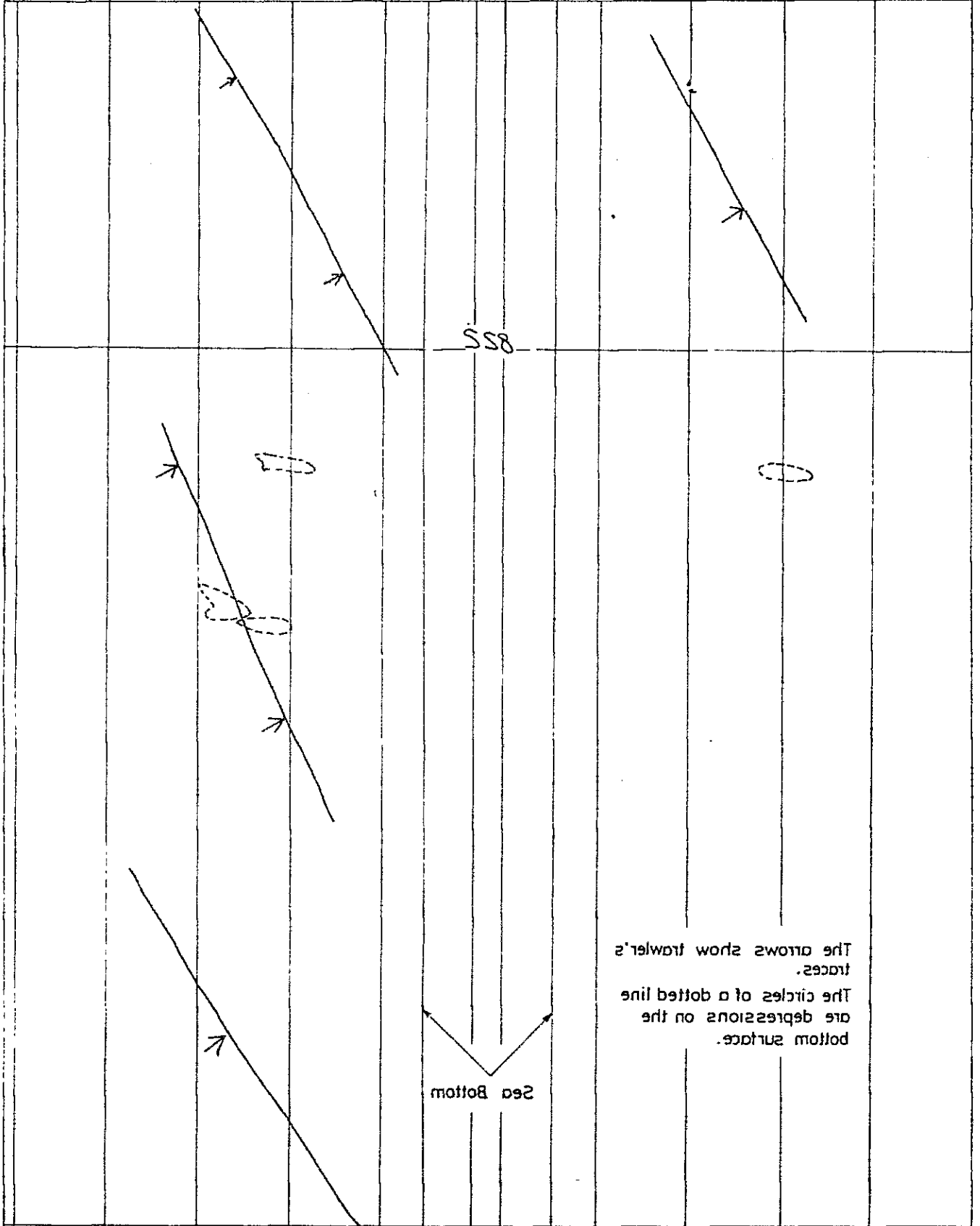


Fig. 5.9(a) RECORD ON SIDE SCAN SONAR

Position 822 ( Lat. 11° 39' N , Long. 100° 20' W )



The circles of a dotted line are depressions on the bottom surface.  
The arrows show towler's tracks.

Sea Bottom

822

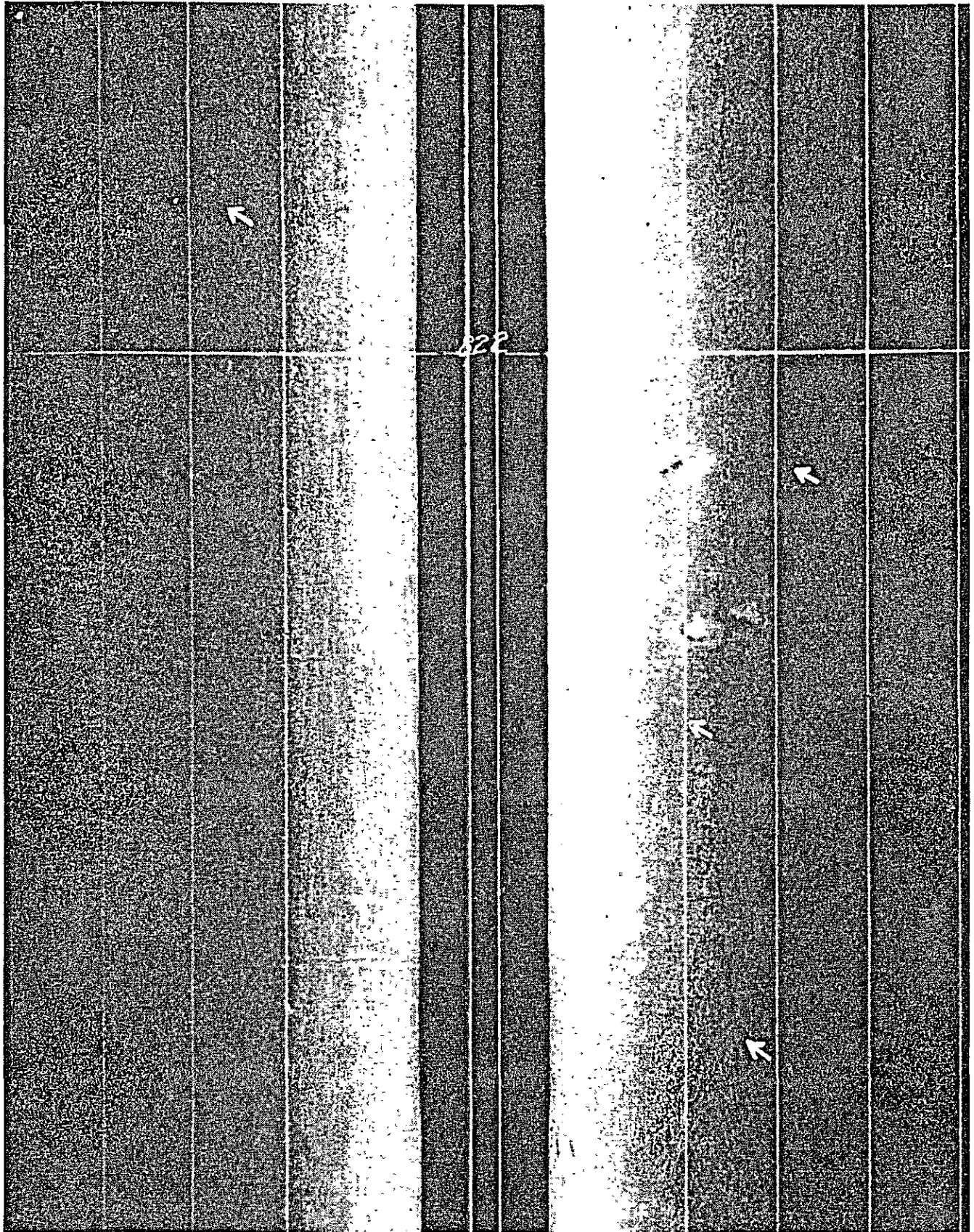
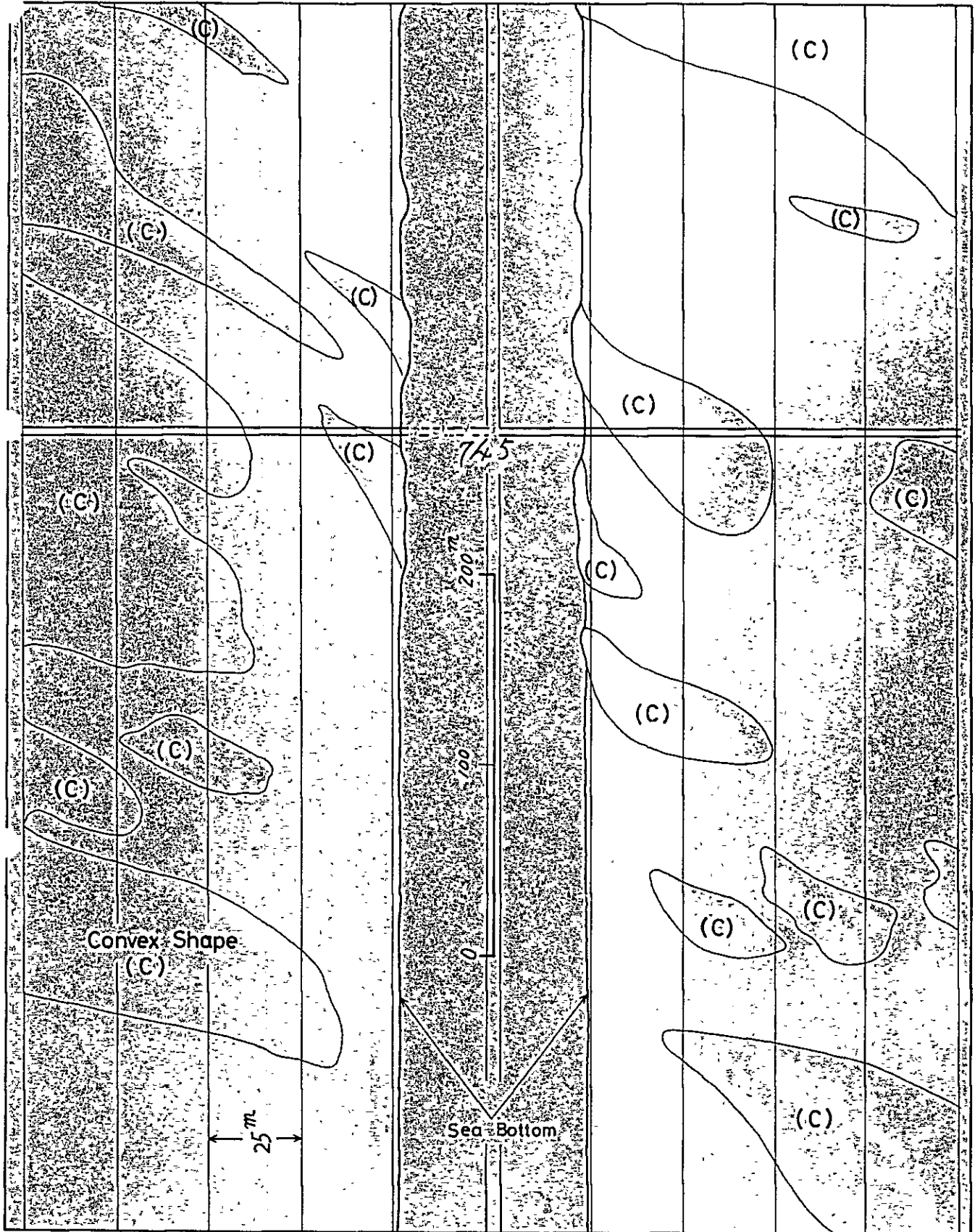


Fig.3.5.9(a) RECORD ON SIDE SCAN SONAR

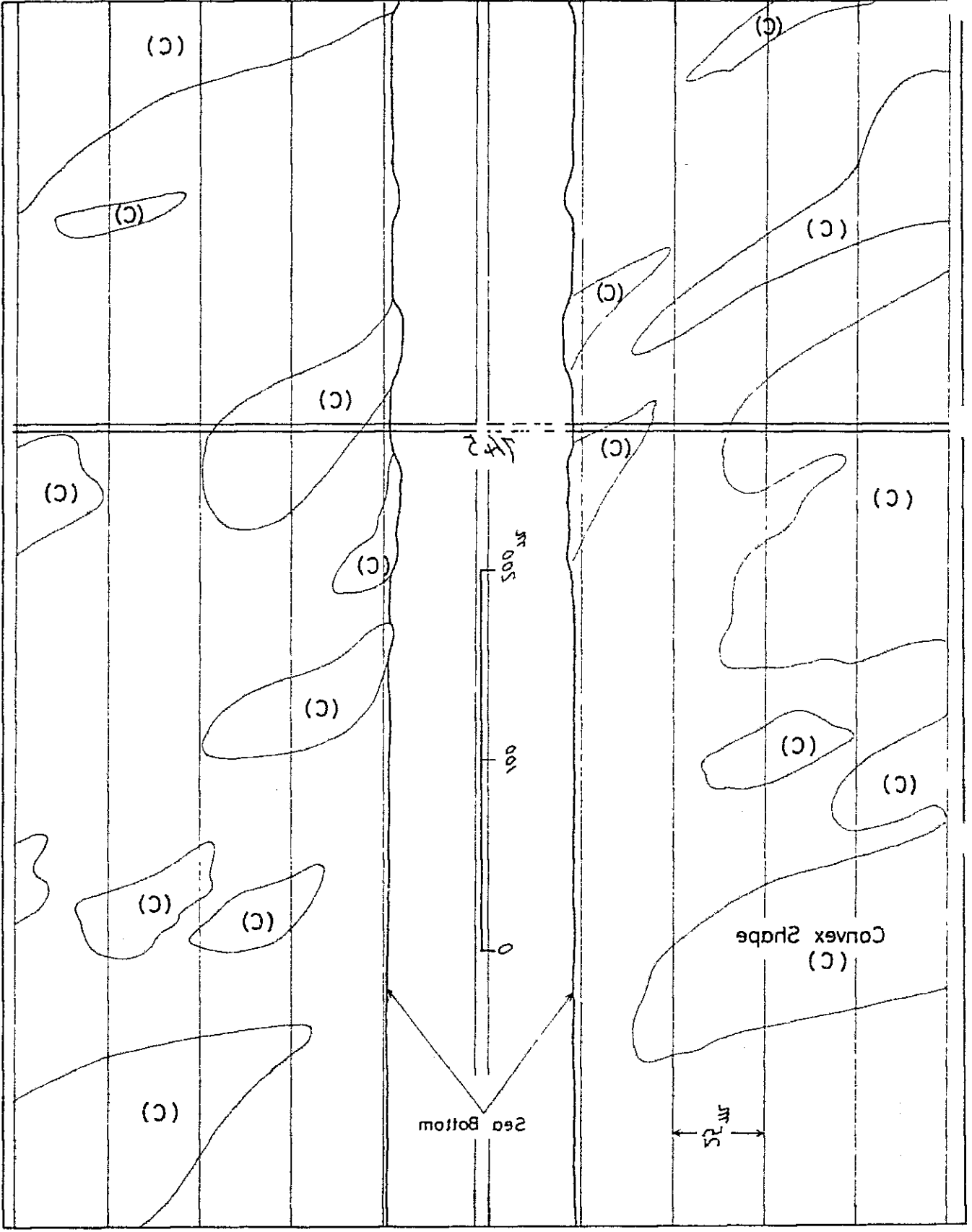


Position 745 ( Lat 10°23.07 , Long 100°25.32 )



2005.12.15 (5)

Position 745 ( Lat 10°23'07" , Long 100°25'32")





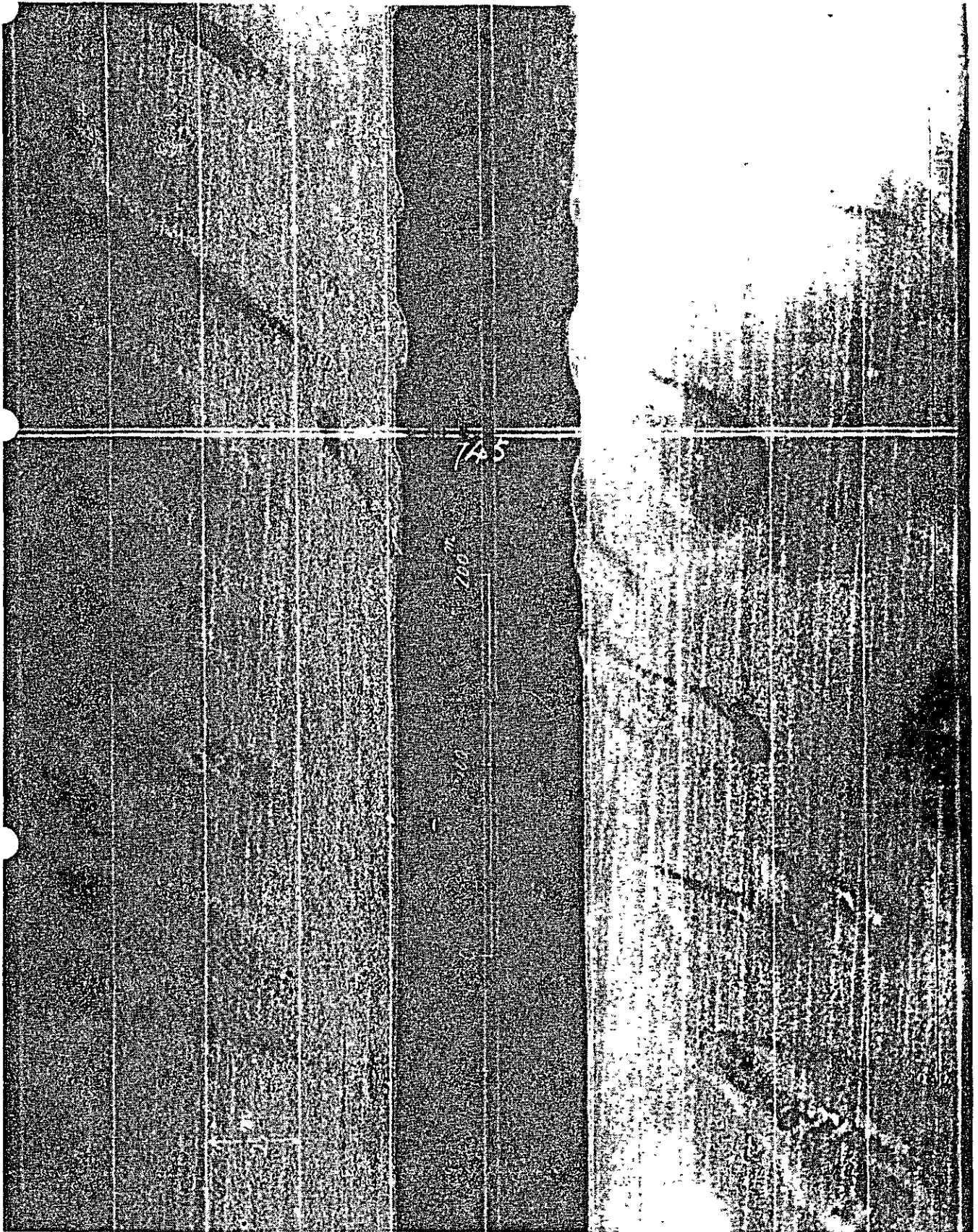
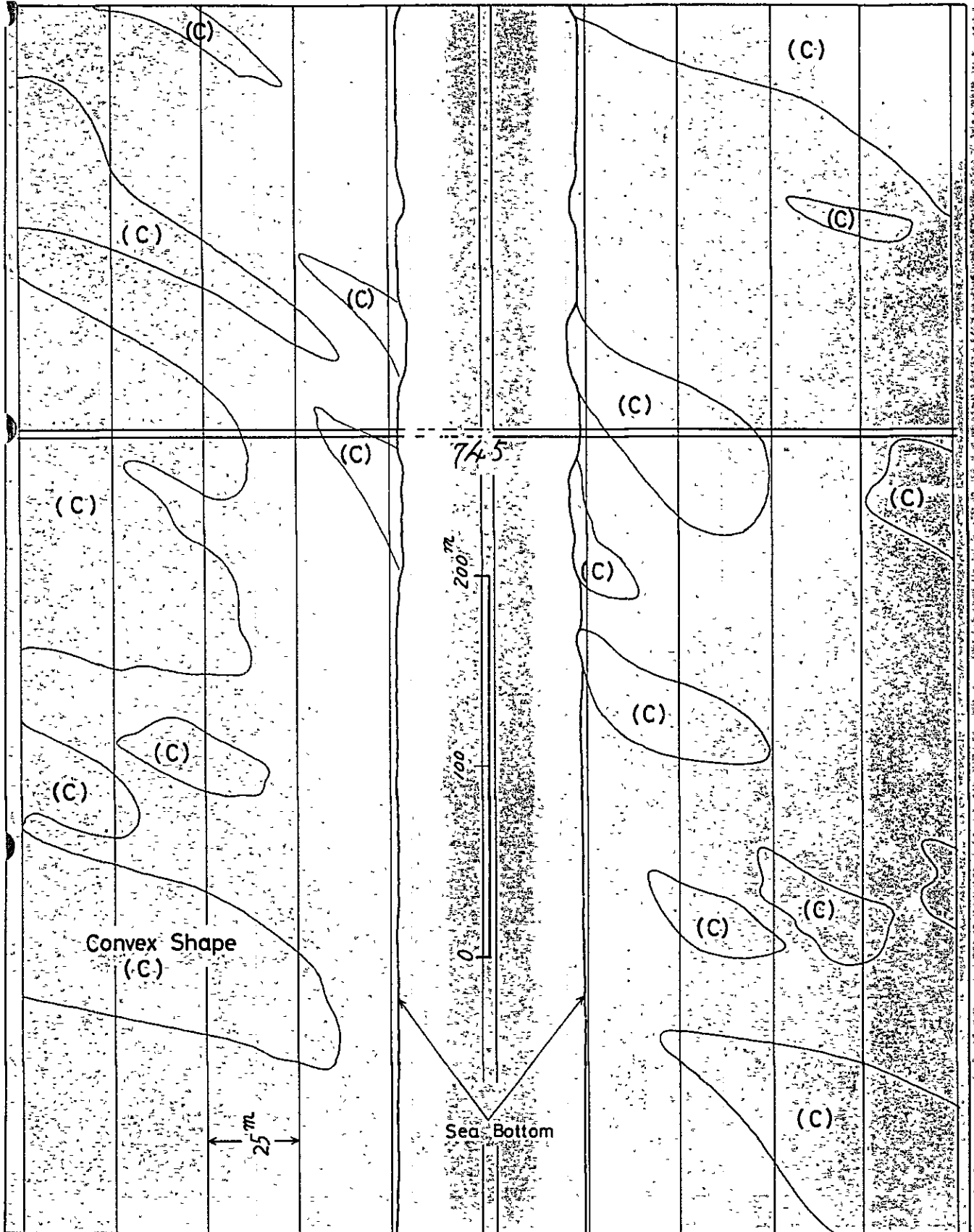


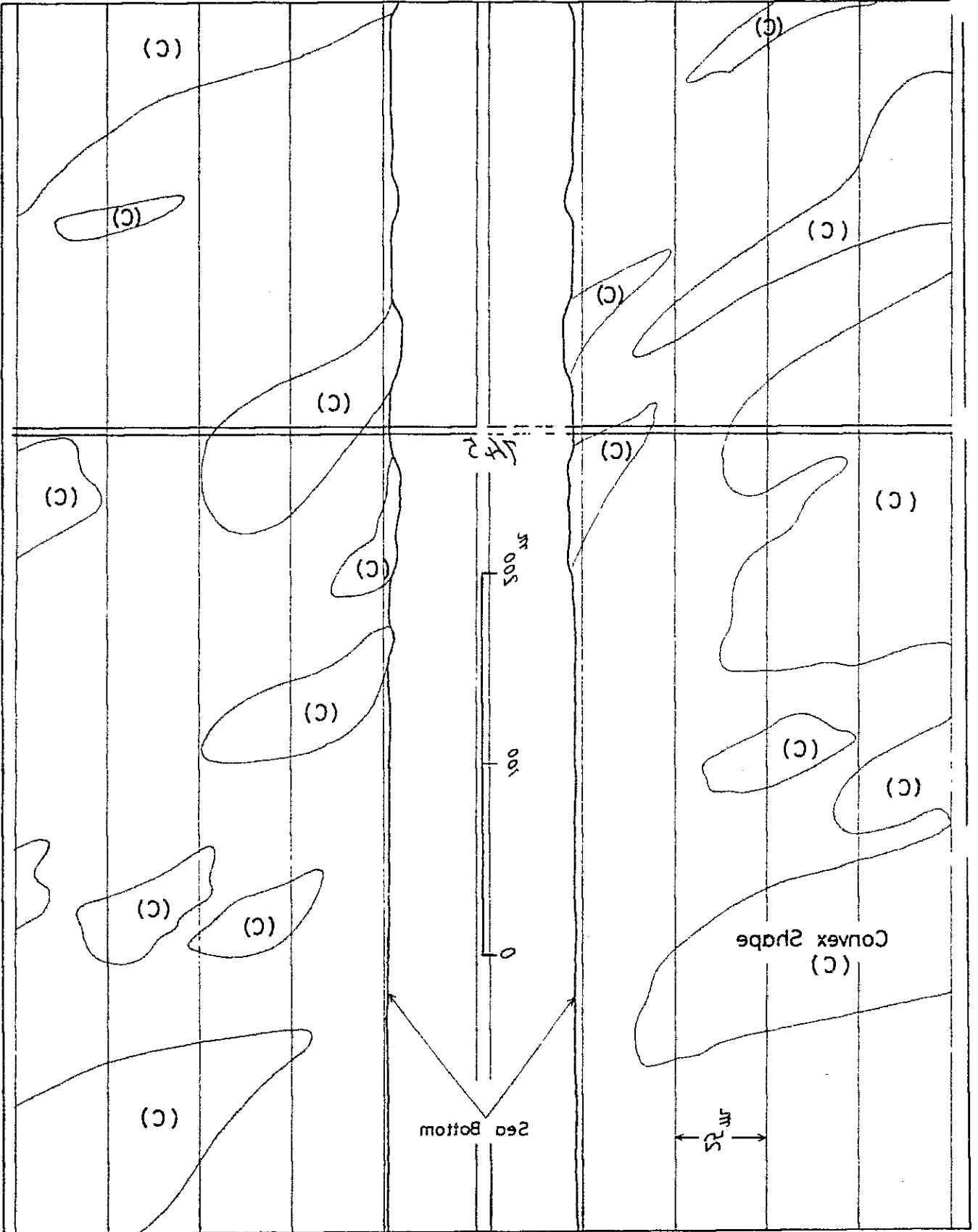
Fig. 3.5.9(b) RECORD ON SIDE SCAN SONAR



Position 745 ( Lat 10°23.07 , Long 100°25.32 )



Position 745 ( Lat 10°23'07" , Long 100°25'32" )



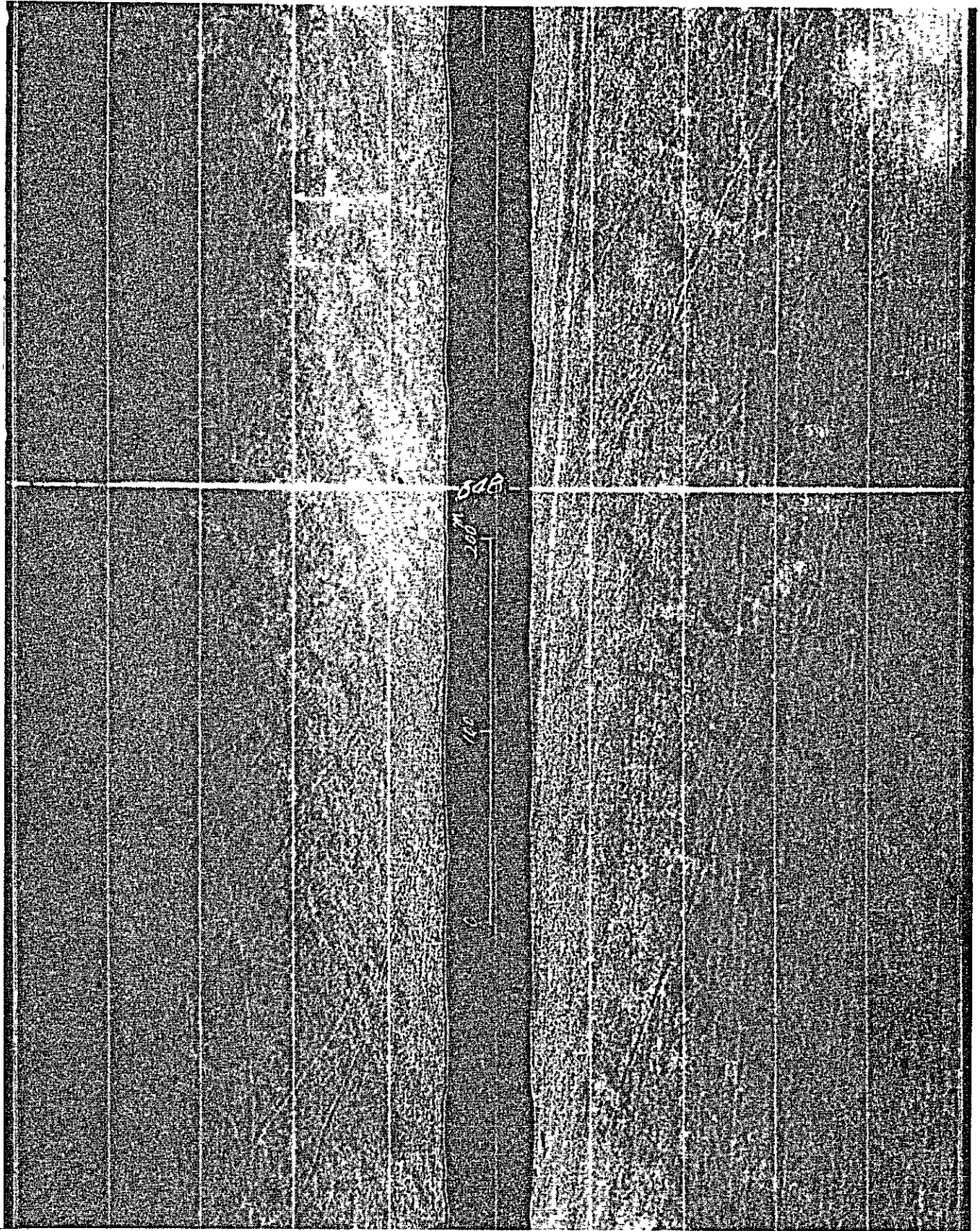
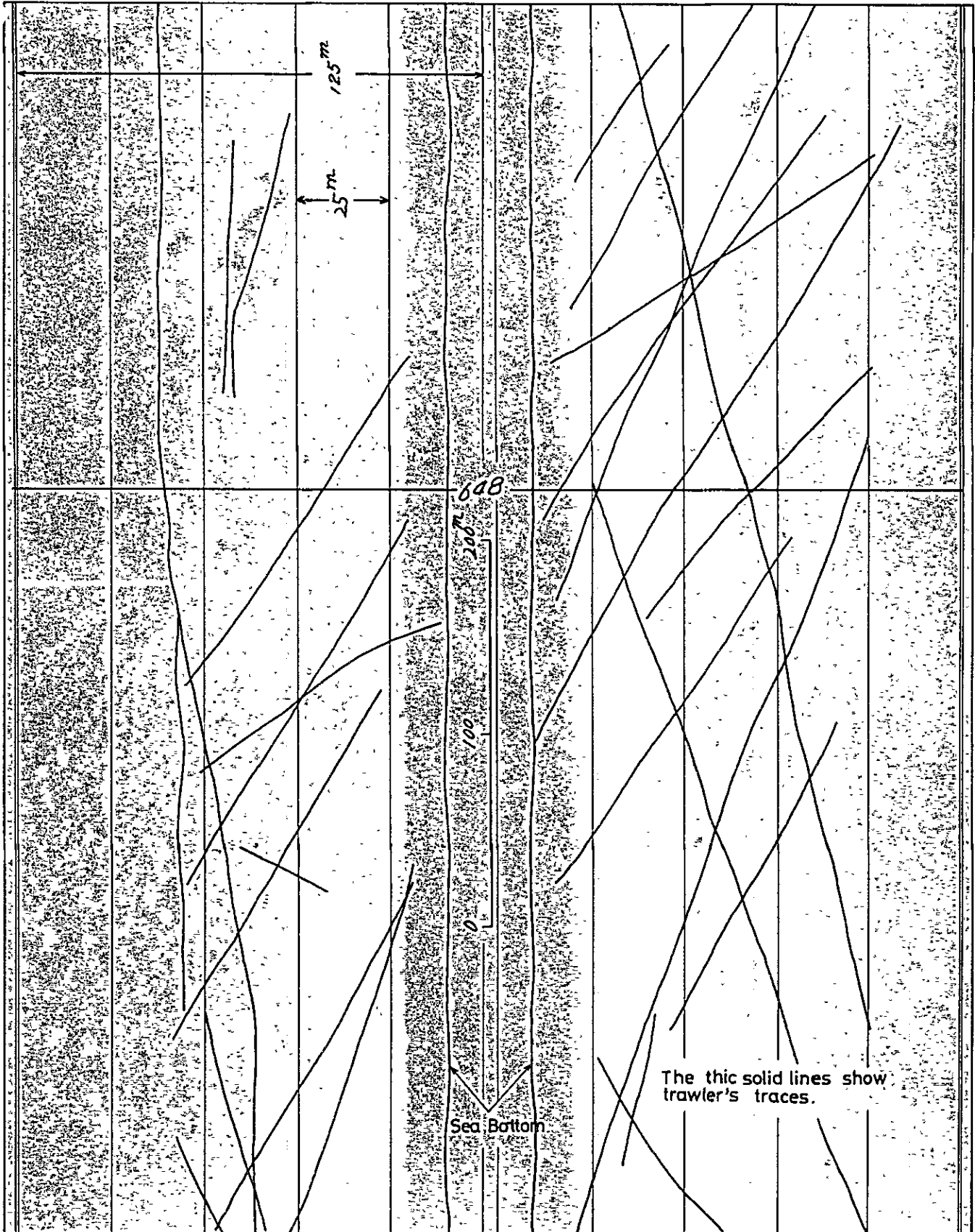


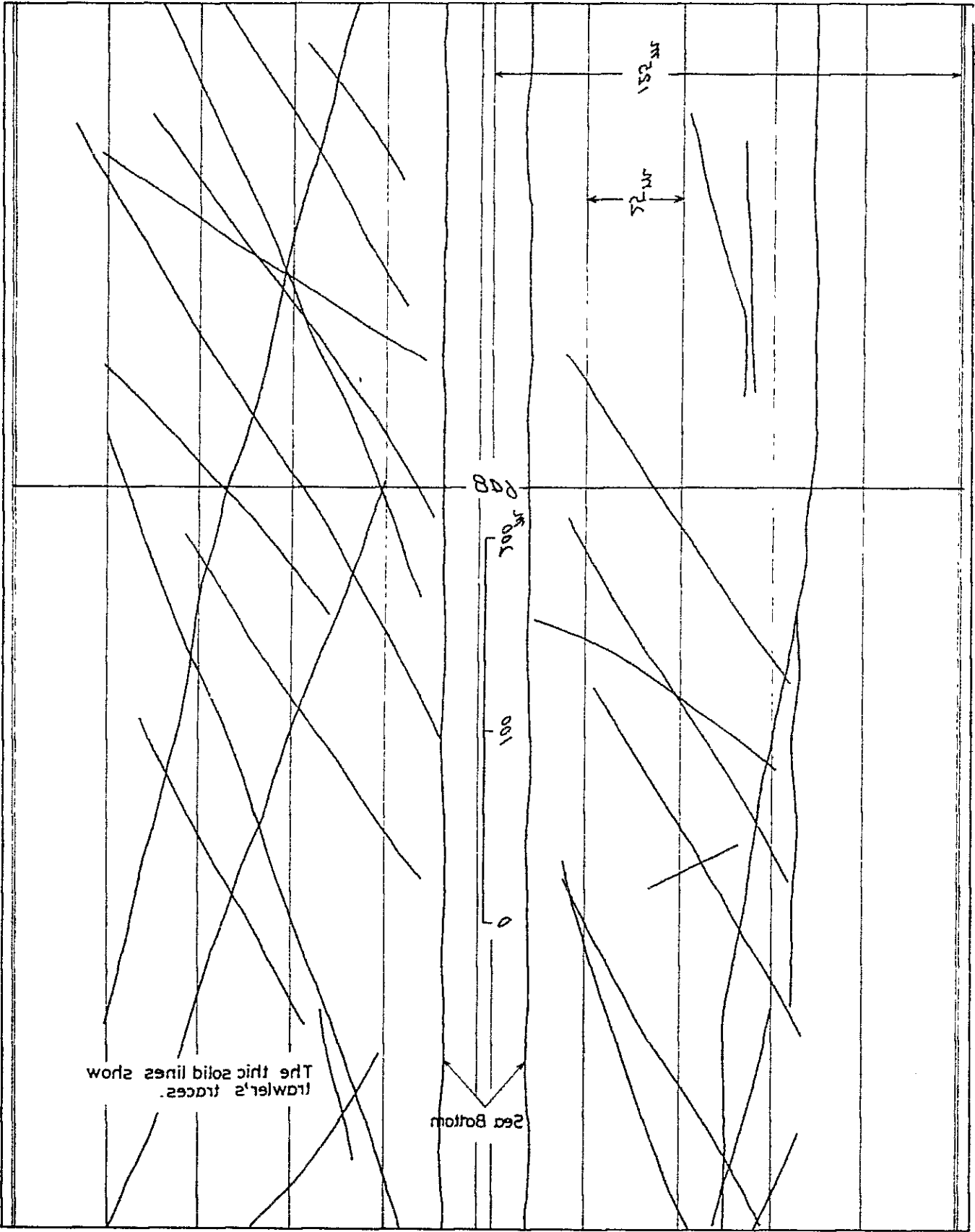
Fig. 3.5.9(c) RECORD ON SIDE SCAN SONAR



Position 648 ( Lat.  $8^{\circ}45'.48$  , Long.  $100^{\circ}52'.00$  )



Position 648 ( Lat. 8°45'48" , Long. 100°52'00" )





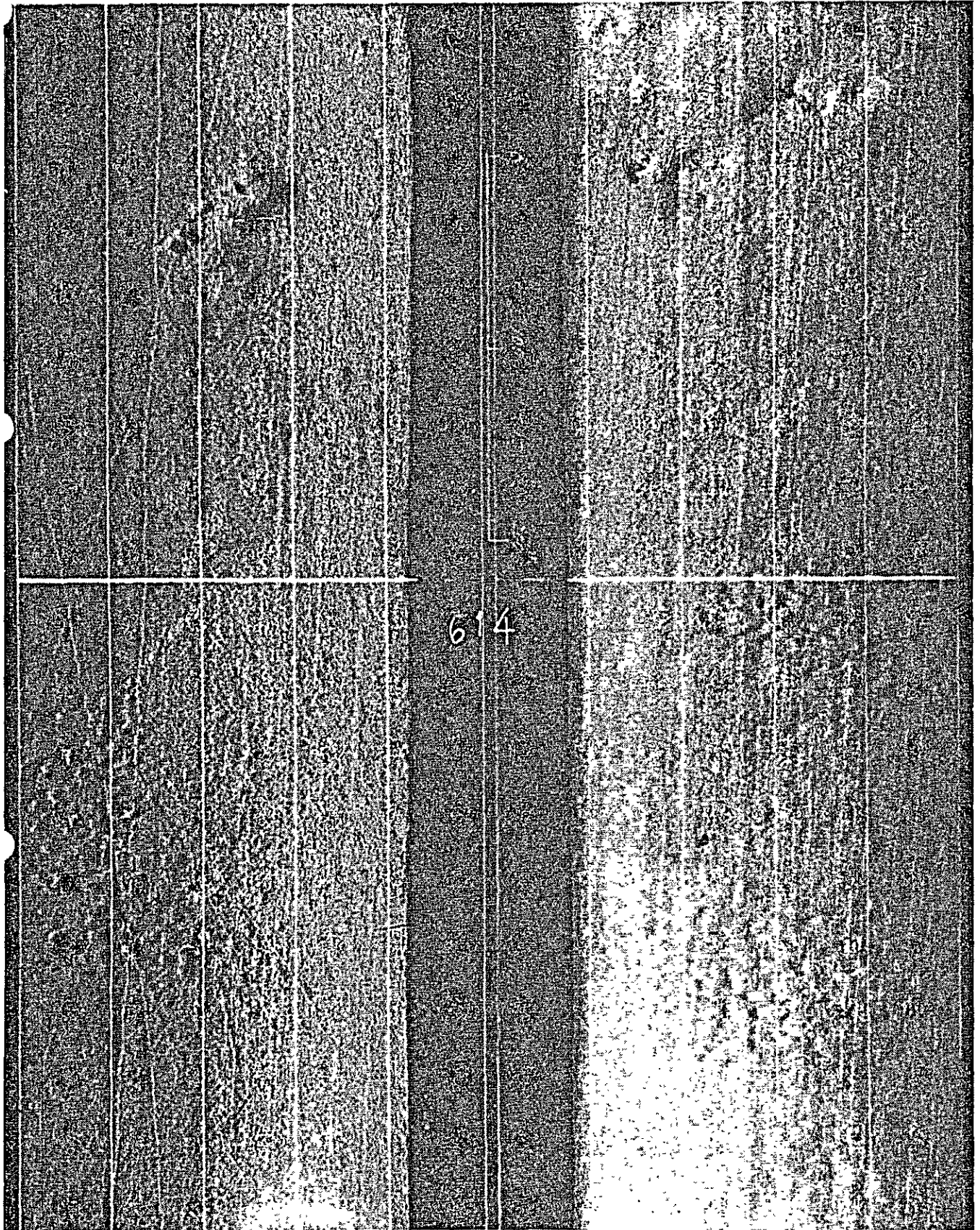
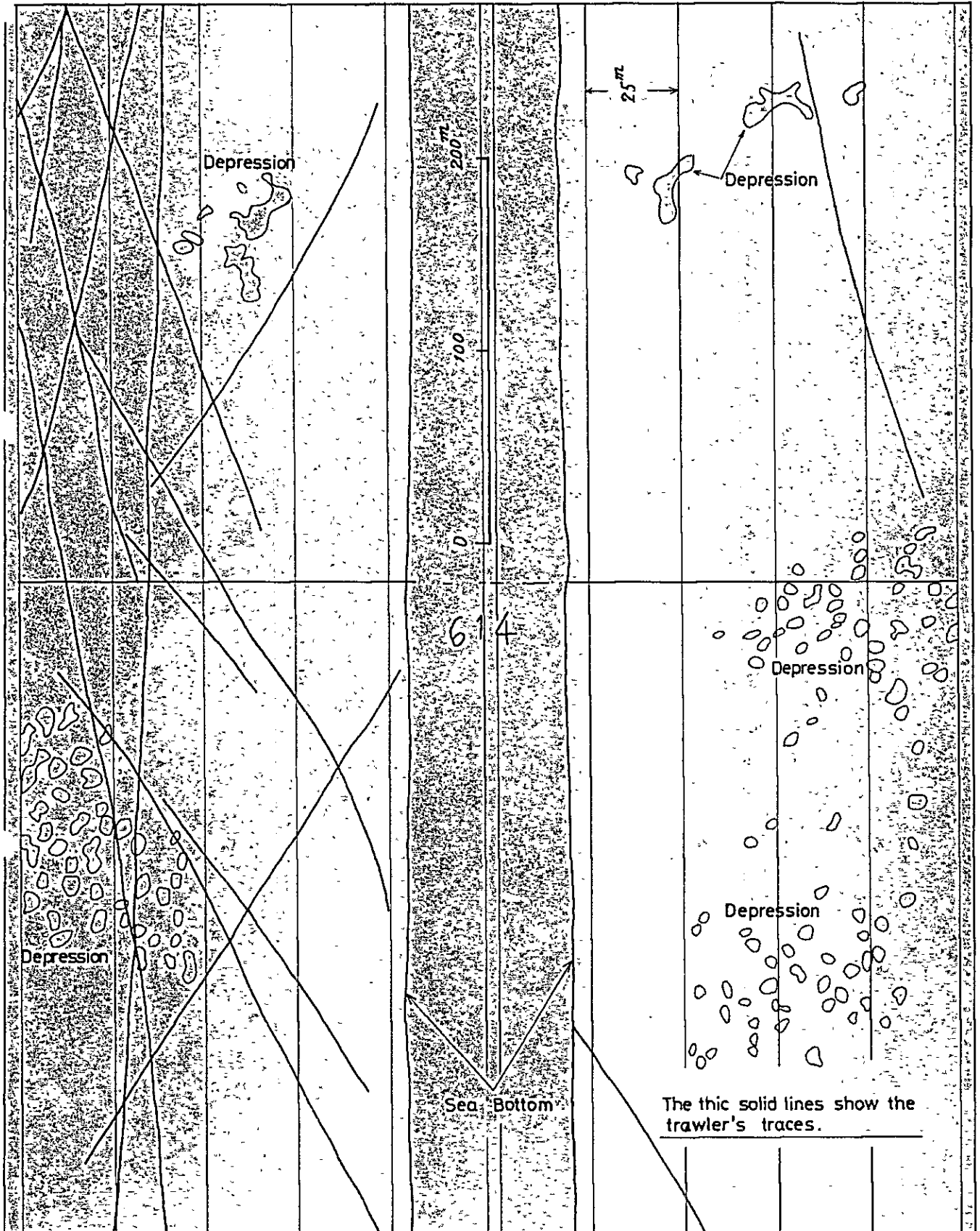


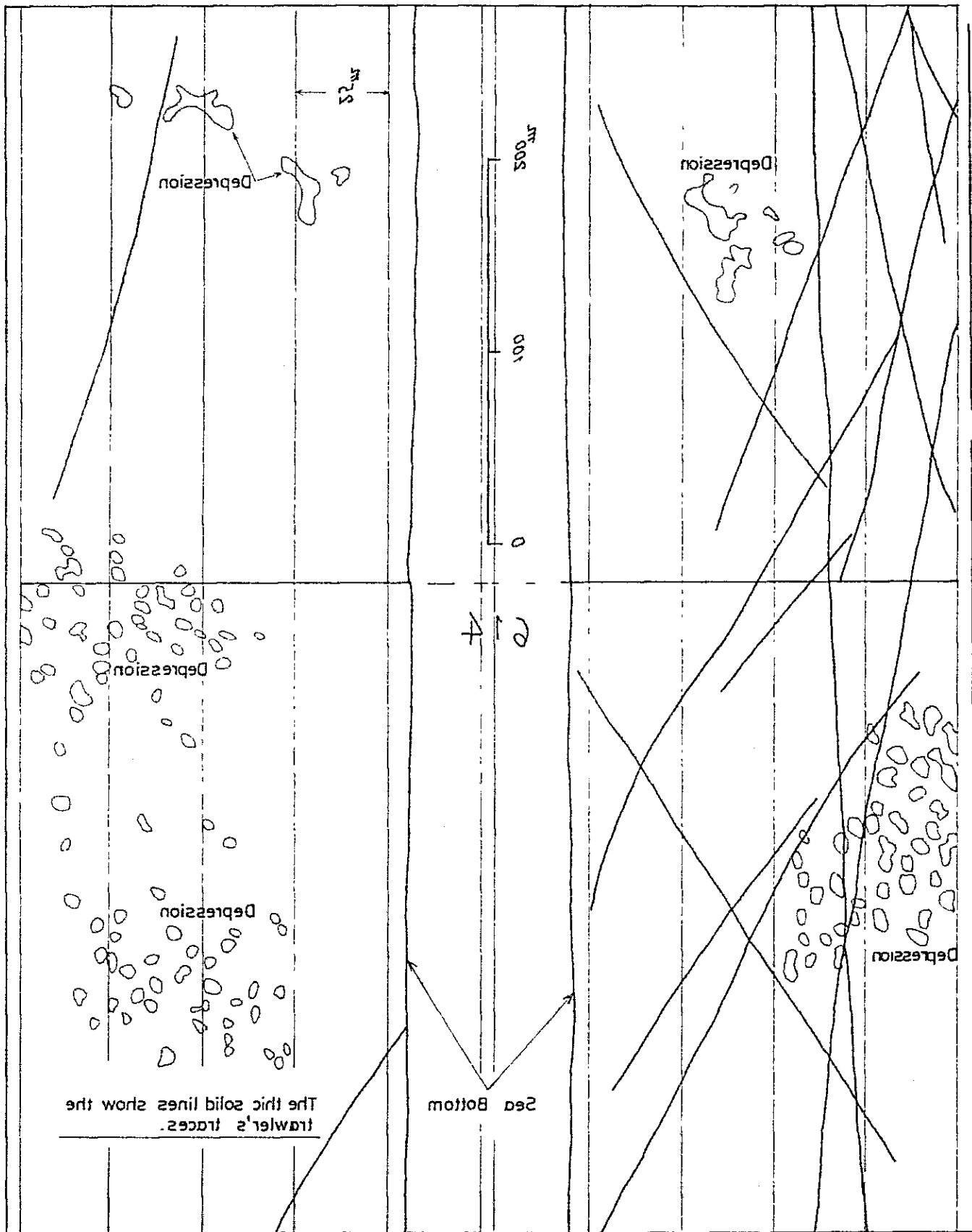
Fig.3.5.9(d) RECORD ON SIDE SCAN SONAR



Position 614 ( Lat. 8° 19.87 , Long 101° 10.64 )



Position 614 ( Lat. 8° 19' 87", Long 101° 10' 64")



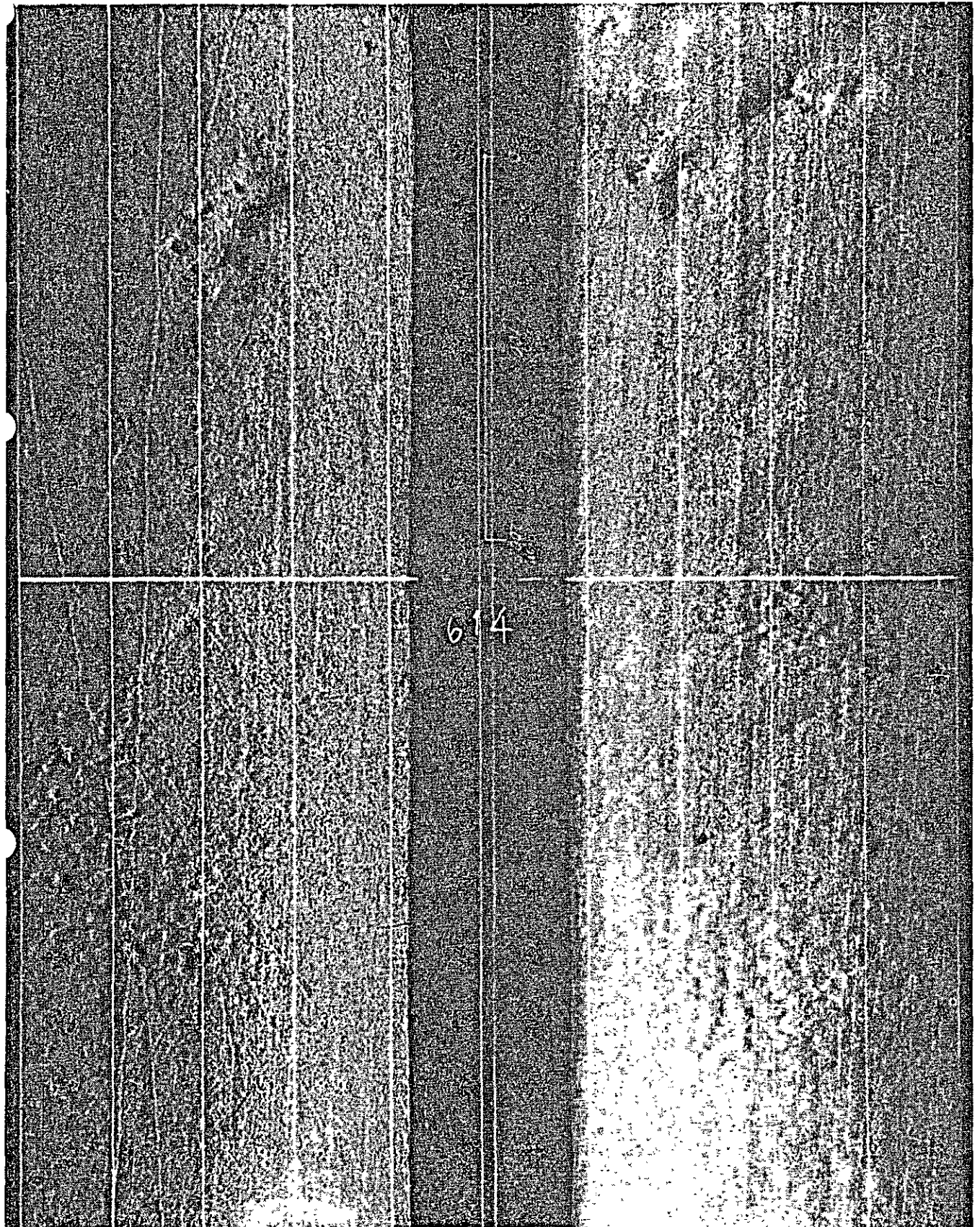
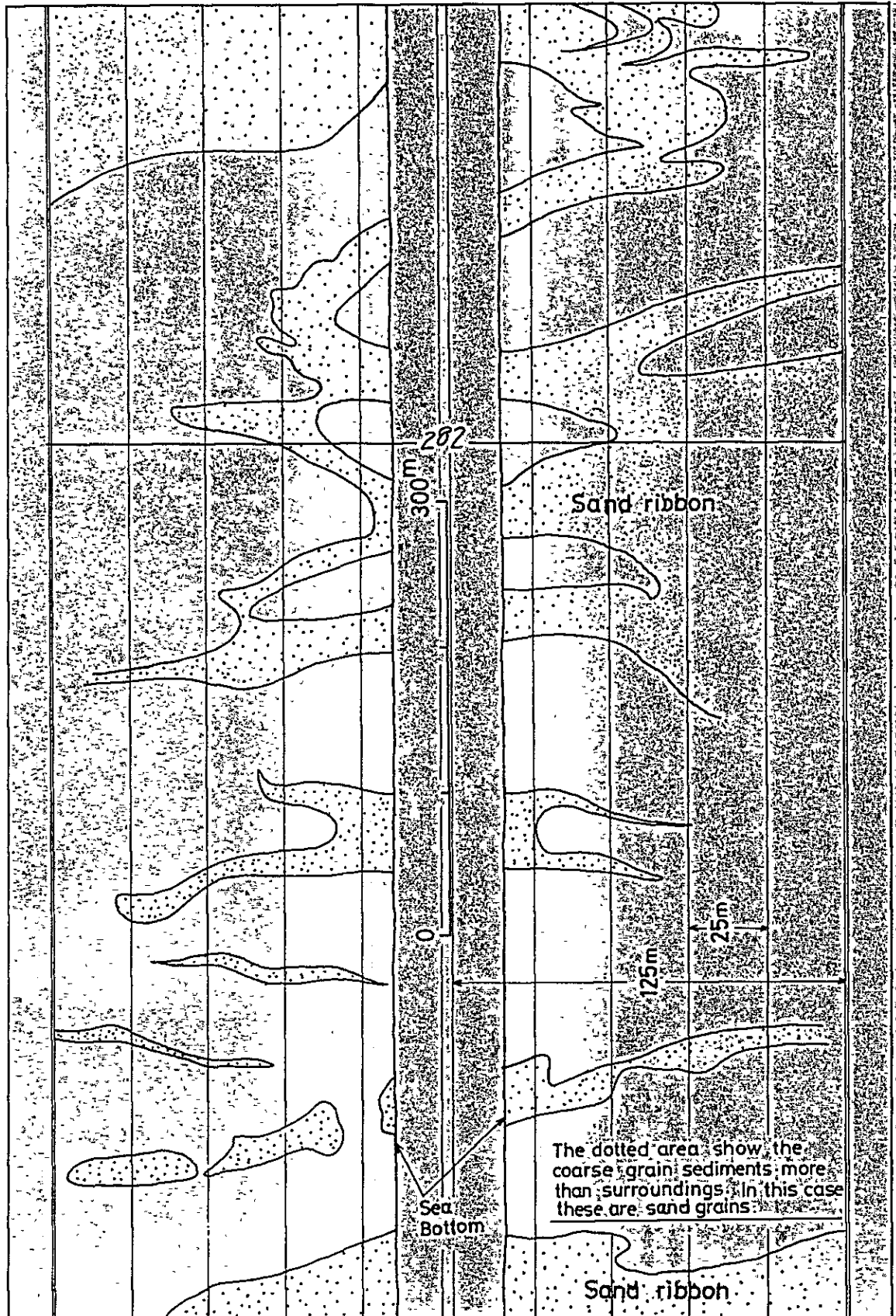


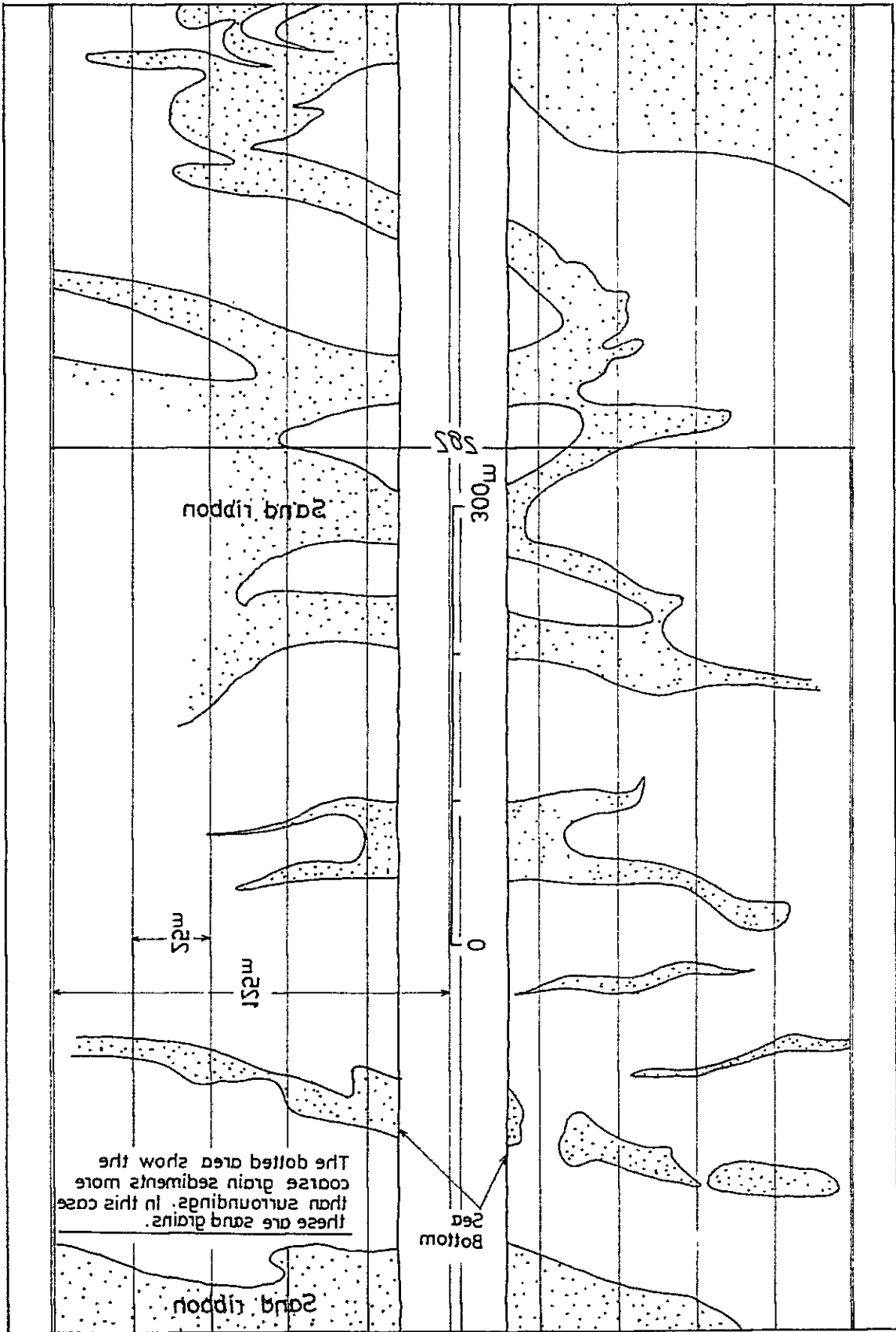
Fig. 3.5.9(d) RECORD ON SIDE SCAN SONAR



Position 282 ( Lat.  $4^{\circ} 10' 38''$ , Long.  $103^{\circ} 34' 77''$  )



Position 282 ( Lat. 4° 10' 38" Long. 103° 34' 17" )





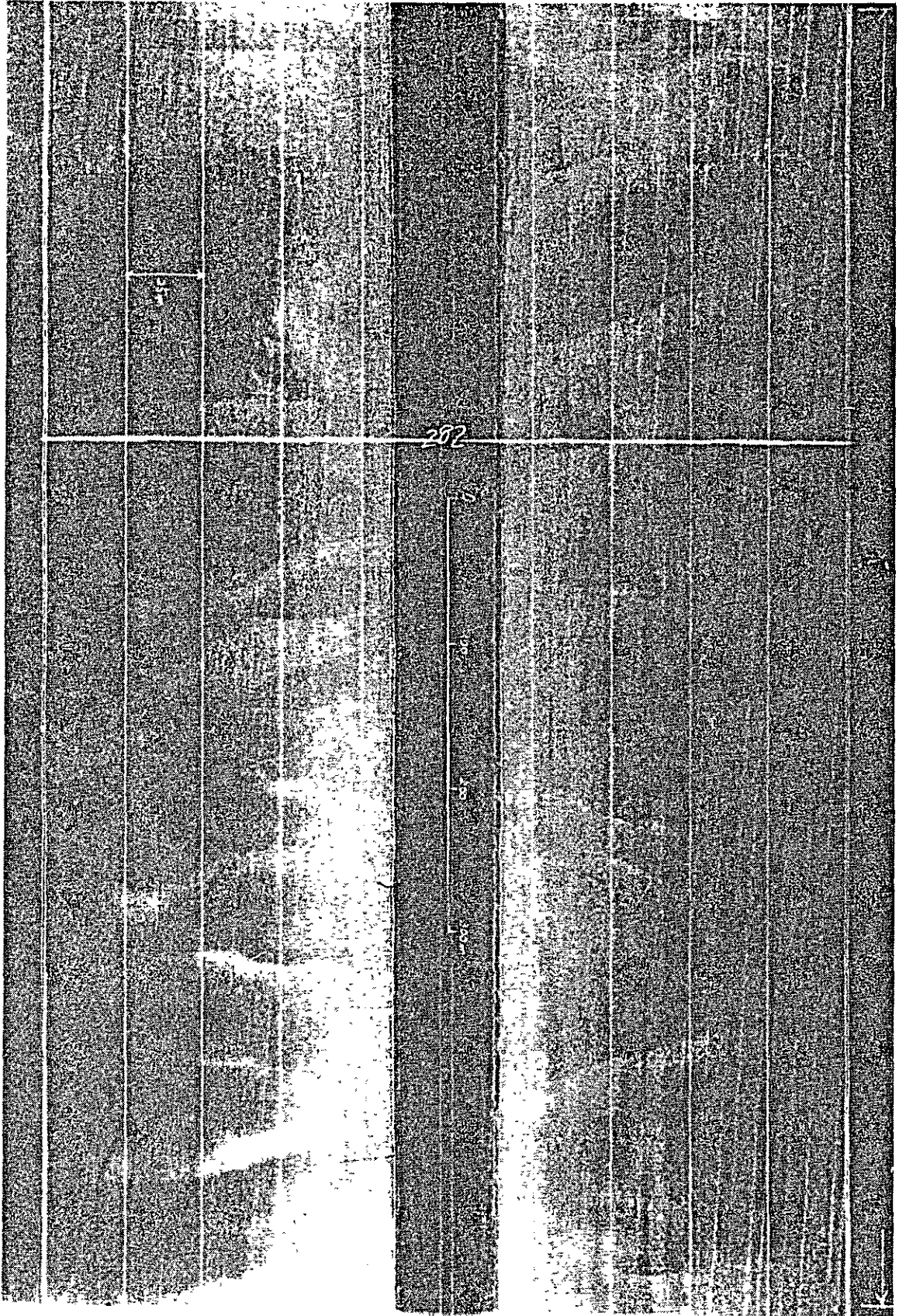


Fig.3.5.9(e) RECORD ON SIDE SCAN SONAR

